

平成 27 年度 教育課程専門委員会県外視察研修会 報告書

視察テーマ：①学校改革 ②生徒募集 ③授業研究 などさまざまな切り口を、どのようなカリキュラムの工夫で支えているのか。

視察校 学校法人洛陽総合学院 洛陽総合高等学校

〒604-8453 京都市中京区西ノ京春日町 8

訪問日時 平成 27 年 9 月 10 日(木) 13:00～15:45

会議室にて 理事長・校長土屋氏 教頭小西氏

1) 京都府の高校の現状(土屋校長・小西教頭の話から)

- ①京都府内の私学の特徴は、進学実績か部活動で知名度を上げるかのいずれかである。
- ②中学時代の学力上位者は、私学に集まる傾向がある。
- ③公立 6 割、私学 4 割の学校数だが、生徒数は私学が多い。
- ④学費の関係で、指導がしにくい生徒は公立に進学する傾向だったが、就学支援金や京都府修学支援事業等の援助により経済的に厳しい生徒も私学に進学してくるようになった。
- ⑤府立高校の統廃合はこれから。また府立は学区制をなくし中高一貫校を作り始めた。
- ⑥生徒急増期に、私学が京都府の要請を受け入れて生徒の受け入れを増やし協力した過去の実績から、私学の発言力は強い。

2) 学校の基本情報

- ①オーナー私学。現理事長兼校長が三代目。祖母が創立し、父が二代目。
- ②全日制。学年制。創立 91 年
- ③沿革 1924 年(大正 13 年) 洛陽高等技芸女学院創立。
1948 年(昭和 23 年) 洛陽技芸高等学校となる。女子校。
二代目校長が逝去した頃、生徒数激減。学校改革を模索し、総合学科を導入し男女共学にすることにする。
1999 年(平成 11 年) 洛陽総合高等学校となる。初年度新入生は 760 名で男女割合は半々であった。その後は 300 名程度の入学生で推移している。
- ④4 年前から新校舎建設(美術館を思わせるモダンな校舎)に着手。今年 11 月に完成予定。
- ⑤校訓 「誠実・勤労・忍耐・温和」
- ⑥教育目標 自ら考え、主体的に判断し行動するために必要な資質や能力などの総合力を育て、豊かな人間性や社会性を身につけた人間を育成すること。
- ⑦スローガン 「一人ひとりの個性を尊重し、自己実現をサポートする学校」
- ⑧全教室電子黒板あり。校内空調設備あり。グラウンド人工芝。学食あり。
- ⑨教職員数は約 70 名。生徒数は各学年 300 名弱(定員は 290 名)で、今年度は、1 年 8、2 年 8、3 年 6 クラス。生徒総計 841 名(男 538 女 303)。

3) 学校の特徴・特色

- ①京都市内唯一の総合学科。(京都府内に 4 校一公立 2 私学 2)
教養系列、情報系列、調理系列、美術・工芸系列、保育・福祉系列の 5 系列。
- ②進学実績や部活動などでアピールする学校を目指さず、また、資格取得や検定合格にもこだわら

ない。

- ③総合学科に5系列を用意し、また系列別必修科目以外にも多種多様な科目を設置し、様々な学びを提案。授業は、専任・常勤・非常勤・外部講師および事務スタッフも加わって対応。
- ④キーワードは「選ぶ」。科目選択、進路選択、修学旅行も選択。
- ⑤立地条件のよさから交通の便がよい。JR 最寄り駅から徒歩2分。自転車通学も多数。少し離れた主要駅からスクールバスを配車。
- ⑥京都市内という立地条件を生かし、外部施設・料亭などと連携し、外部施設(ボーリング場など)の利用や講師を招聘。
- ⑦就職希望もあり、3割は地元就職。(京都私学で就職者がいるのは3校のみ)
- ⑧修学旅行(2年次) ハワイ・フランス・台湾の3コース から選択。
- ⑨近年、転入生の受け入れが増加(年に2名程度ある)。市内からの転入も可。不登校生徒(ボーリングなどユニークな科目選択により単位取得が可能)も転入。
- ⑩スローガンの「一人ひとりの個性を尊重」する丁寧な指導を実践し、その結果口コミで評判が広がり、募集本来の目的ではなかったが、指導が大変な生徒(不登校生徒や発達障害の生徒など)が入学するようになった。(1年次は2クラスに集めている)
- ⑪高大連携 福井工業大学(1泊2日又は2泊3日で授業体験 希望者)。その他、成安造形大学と連携。

4) 教育課程等の特徴など

- ①月曜～金曜の週5日制。(土曜授業なし) 始業9:10 終業16:00
- ②1年次は全員共通で必修科目(主に普通科目)を履修。2年から系列に分かれる。
- ③1年次に「産業社会と人間」(2単位)で自己理解からライフプラン(人生設計)を学び、2年次の系列選択に結びつける。生徒への説明とともに保護者への説明会を開催。
- ④教養系列は、3コース(文系進学・理系進学・学び直し)。
- ⑤2、3年は同一系列が原則だが、3年進級時に他系列への変更も可能。
- ⑥2、3年の科目選択は、学年での必修科目と系列別の必修科目、選択科目群からの必選択と自由選択(火曜・水曜・木曜の6時間目は選択しないという選択もある。生徒の半数は選択していない。)。自分で時間割を組み立てる。
- ⑦74単位修得で卒業認定。学校外の学修(ボランティア・インターンシップなど、また検定合格)を単位認定し、74単位の中に含むこともできる。
- ⑧前・後期制とし、半期で単位修得できる科目もある。よって、3年で卒業できなくても、4年生の前期で卒業というケースもある。留年はない。(留年になるとやめてしまう)
- ⑨系列選択と科目選択の希望は10月にとり、その後次年度のカリキュラムを組み始める。
- ⑩授業出席は、4分の3以上と規定。年間授業時間数は、1単位30時間程度実施。
- ⑪学校の想定している系列別人数は、教養系列4×35、情報系列35、調理系列35、美術・工芸系列35、保育・福祉系列35だが、年度で変動があり思った通りには行かない。希望を優先するが誘導もある。
- ⑫2、3年次は、ホームルームの中に他系列の生徒が混在し、授業ごとに教室を移動する形。私物は廊下の鍵がつけられるロッカーに入れ、教材はバッグに入れて移動する。

⑬時代の変化や生徒のニーズに合わせて授業内容も変化。情報系列の設立当時は、エクセルやワードなどだったが、現在は映像表現を中心にしている。

⑭調理系列では、京都料亭の料理人の話を聞く講座や技術指導を受けられる授業もある。

5) 受験できる検定・資格等

英検・漢検・日本語・数検・P検・ワープロ・パソコンスピード・食物調理・保育技術。

6) ユニークな選択科目(抜粋)

実践コミュニケーション心理学・世界の文化と生活・百人一首を楽しもう・京都入門・京都の歴史・京の伝統芸術・音楽鑑賞・イラスト・ボーリング・学び直し(英語・数学・国語)など

7) 生徒募集など

定員 290 名(1次 280 1.5次 10) 1.5次は、1次入試終了後1週間以内程度に、各校が独自に決めた日(府立前期試験前)に行う。この結果、実質的には私学複数校併受験も可能。

説明会等 年6回 夏・秋・個別2・冬・入試直前に実施。

視察を終えて

私学にとって生徒募集は最も重要な活動のひとつであるといっても過言ではないと思う。言うまでもないことだが、生徒がいなければ学校が成り立たないからである。

だからこそ、どこの私学も生徒募集に力を入れることになる。京都府に限らず、有名大学進学実績やインターハイ等全国大会出場で校名をアピールし、募集に結び付けようとする私学は多い。

そのような中で、他校との差別化の方法として洛陽総合高校は、「総合学科」を選んだ。実業教育の伝統を受け継ぎ、時代や生徒のニーズに応える多種多様な科目を、多数用意した。

エリート教育でもなく、部活動でのアピールでもなく、資格取得や検定合格実績でもない。生徒が自分で学びたいことを見つけ、自由に選択し、学び、わかり、変わっていく。そして、自分の進路を自分で選択し社会に旅立っていく。徹底した「生徒中心主義」だと思った。

洛陽総合高校は、人との競争ではなく、それぞれがそれぞれの分野で輝いていくための学校である。生徒たちは、明るく屈託なく学校生活を楽しんでいるように見えた。

学校案内の表紙ページは、5人の女生徒である。彼女らは、自分たちがやりたいと思う部活動がなかったから、ダンス同好会を作った。学校は、こんな生徒を求めているのだということが伝わってくるし、それがこの学校の目指していることなのだというアピールになっている。

教育課程の編成は、毎年大変な作業であり、10月から始めないと間に合わないという。

また、学校設定科目も多数ある。個人的な意見だが、教務の立場で考えると気が萎えてしまう。それを乗り越え、生徒のニーズに応えた授業を作り、組み上げた。

生徒にとって、自由に選択ができる魅力ある授業があること、そして自己実現できることで、この学校に生徒が集まってくるのだと思った。

平成27年度 教育課程専門委員会県外視察研修会 報告書Ⅱ

視察校： 学校法人明德学園 京都成章高等学校
〒610-1106 京都市西京区大枝沓掛町26
TEL 075 (332) 4830 Fax 075 (331) 0827

視察日： 平成27年9月11日(金) 9:00～12:00



1 モットー

1986年開校以来一貫して、「わからない生徒にはわかるまで、わかる生徒にはもっと伸びるように」という考えを基本に教育活動を実践し、大学進学を実現している。教育システムのすべては、このモットーを具体化し、実践するために構成され、また、その結果が生徒一人一人の夢の実現につながっている。

2 課程

全日制課程普通科(男女共学)

※平成26年には通信制課程も開校

3 校訓

自学 自成 自立

4 交通

阪急桂駅からバス約20

JR桂川駅からバス約20分

JR亀岡駅からバス約25分

5 クラス編成

ASクラス 1年生4クラス 2年生4クラス 3年生5クラス

アカデミークラス 1年生3クラス 2年生4クラス 3年生4クラス

ゼネラルクラス ※平成28年4月にはメディカルスポーツクラスへと発展

6 進路状況

平成27年度大学合格実績(現役合格者数)

①国公立大学現役合格者数156名

京都大学2名 大阪大学5名 神戸大学3名 北海道大学4名 九州大学1名 京都府立大学

8名 京都府立医科大学3名 京都工芸繊維大学9名 京都教育大学2名 奈良教育大学1名

大阪府立大学2名 大阪市立大学2名 神戸市外国語大学3名 滋賀大学15名 など

②関関同立現役合格者数446名

同志社大学111名 立命館大学155名 関西大学162名 関西学院大学18名

③その他の私立大学現役合格者数485名



明治大学2名 青山学院大学1名 中央大学1名 法政大学3名 大阪医科大学3名 同志社女子大学25名 甲南大学2名 近畿大学30名 龍谷大学116名 京都産業大学61名 など

7 コースの特色

○ASクラス [国公立大学126名、関関同立289名]

- ①3年間文系・理系を問わず、国公立大学に合格できるようにするため、すべての科目に重点が置かれたカリキュラムが構成されている。
- ②1年次は、国公立大学の現役合格に必要な英語・国語・数学の基礎学力を目指し、2年次は、文系と理系とに分かれ、それぞれ国公立大学の受験に必要な科目の学習を行い、3年次は、自分が目指す大学の受験科目にあわせた選択科目を受講する。
- ③放課後の進学講座も多岐にわたり、通常の授業が終了したあとに、ほぼ毎日自分の志望にあった特別講座を受講し、必要な学力の養成に努める。
- ④2年次から京都大学への理系学部への進学を希望する生徒を対象とした「京大クラス」が設定される。なお、京都大学の文系学部を志望する生徒については、ASクラスの中に少人数で構成される文系選抜クラスに入って、教育を受ける。

○アカデミッククラス [国公立大学29名、関関同立155名]

- ①国公立大学、私立大学など、様々な進路にあわせてクラス設定を行い、多様なニーズに応えるための柔軟なカリキュラムが組まれる。
- ②入試科目に特化したカリキュラムが組まれる。志望する生徒の人数などによって、細分化、または合同化されることもある。また、英語や数学などで習熟度別の授業を展開することもある。さらには3年次で高大連携クラスも設置され、立命館大学との高大連携で進学していく生徒も多い。
- ③1年次でのカリキュラムは、ASクラスと同じものが組み、ASクラスと同様、1年生の間は国公立大学への進学を前提にして、英語・国語・数学に重点が置かれた教育内容を展開する。2年次になるとそれぞれのクラスに分かれてカリキュラムが変わる。国立文系クラスと理系クラスでは、2年次もASクラスと同様、国公立大学に向けた授業内容だが、他方、私立文系クラスでは、2年次からは数学の授業が無くなり、可能な限り関関同立を中心とする私立大学の受験科目である英語・国語・歴史に力点が置かれたカリキュラムが構成される。3年次になると、さらに目標に合わせて細分化された授業などが開講され、理系クラスでは同一のクラス内に、薬学部を目指す生徒のための数学の授業や、放課後には国公立大学の推薦入試対策などさまざまな取り組みがなされる。また、小論文で受験する生徒たちのための個別指導もさかんになる。
- ④入学の時はアカデミッククラスであっても、国公立大学への進学希望者ならば、クラス替えのような形で試験がなくASクラスへ編入することが可能である。ASクラスへは編入機会は、1年次の2学期、2年次、3年次の3回ある。

○メディカルスポーツクラス

- ①自らの競技力の向上やアスリートとしての教養を身につけ、より健康で優れた競技選手になるためスポーツ医学などの知識を学ぶ。

- ②スポーツ医学などの専門科目はあくまで普通科の範囲内で学び、専門科目以外は私立大学を目指した受験科目に対応したカリキュラムとなる。
- ③部活動の義務づけはない。ただし、スポーツに関心がある生徒であることを前提に何らかのクラブに入部することを推奨する。
- ④専門科目……メディカルスポーツ1A メディカルスポーツ1B メディカルスポーツ2
メディカルスポーツ3 総合スポーツ論 コーチング 社会学A・B
- ⑤平成27年4月に創部したスポーツ……女子ソフトテニス部 女子バトミントン部
女子ソフトボール部 ゴルフ部 (男・女)

[既存の部活動]

野球部 (男子) ラグビーフットボール部 (男子) バスケットボール部 (男・女) 剣道部 (男・女) 男子バレーボール部 硬式テニス部 (男・女) 陸上競技部 (男・女) 卓球部 (男・女)

8 特徴的な取り組み

- 進学講座 夕方からの時間を有効に使い、より学習内容の定着を図る
 - ①クラス別進学講座 ②受験科目別・習熟度別進学講座 ③入試問題演習 ④個別指導
- 進路指導 正規授業はもちろんのこと、それ以外の時間を用いて学力をサポートする。
 - ①朝テスト (午後テスト) ②放課後の進学講座 ③個別指導 ④長期休暇中の進学講座：
夏期休暇 (1・2年生は約3週間、3年生は約4週間)、冬期休暇 (約1週間)、春期休暇 (約1週間) ⑤模擬試験 ⑥進路集会

視察を終えて

訪問させていただいた際、吉竹浩克校長が、中学訪問等お忙しいに関わらず、経営方針を熱く2時間語ってくれました。本当に心より感謝申し上げます。その説明の中で、広報活動は生徒集めではなく、本校の性質・可能性・限界を知ってもらうことが目的であり、それによって賛同した生徒と保護者、多様な要求をさせないシステム、日々進学指向上に努めている教員が一体となった教育が展開でき、生徒一人一人の夢の実現が可能となる、とお聞きし、大いに参考となりました。ありがとうございました。

報告者 : 専門委員 学校法人静岡理工科大学 静岡北高等学校 村田卓久